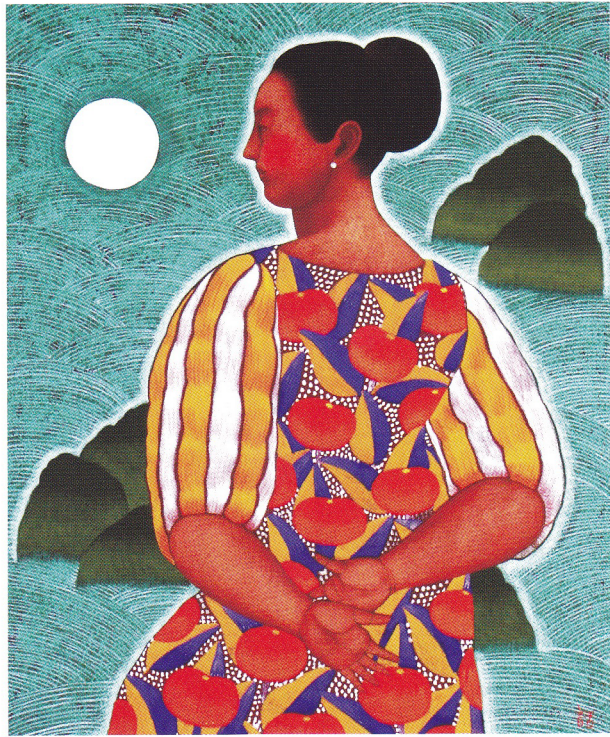


《波に夕チバナ》  
2011年 45.5×37.9cm  
和紙、岩絵具、膠



自らに願う

生命力のある女性の姿

# 田宮話子

Wako Tamaya

たみや・わこ

1964年静岡県生まれ。87年女子美術大学卒業。  
95年東京藝術大学大学院修士課程修了。2002年  
同大学院後期博士課程満期修了(デザイン専攻  
画装飾研究室)。個展、グループ展多数。現在、常  
葉大学准教授 7/2~15 東京藝術大学描画系  
Shinpa!!!!!!! 東京展(佐藤美術館)

## 画家に聞く女性像⑨—彦根城博物館 《彦根屏風》

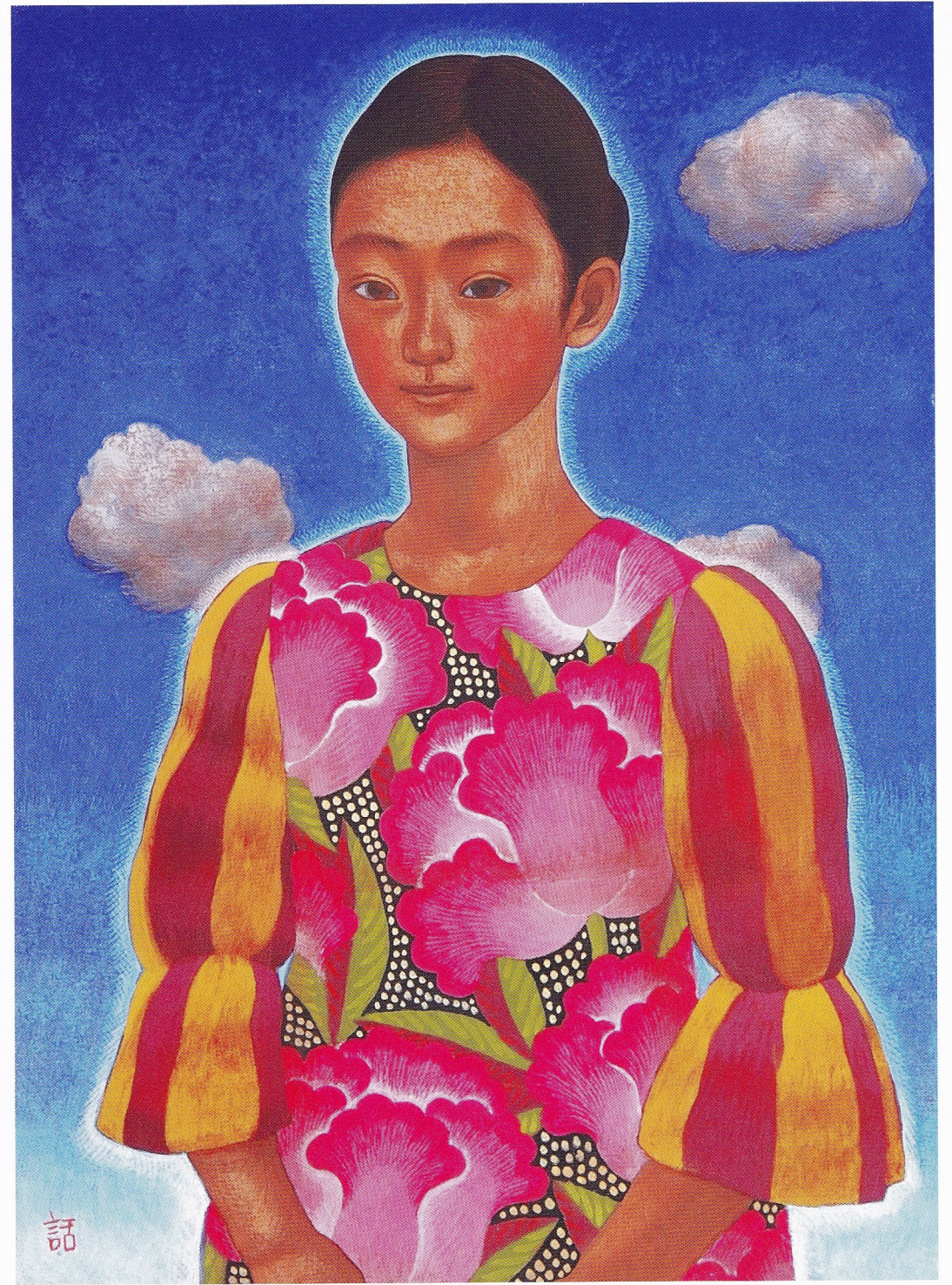


《国宝紙本金地着色風俗図(彦根屏風)》  
(部分) 江戸時代 六曲一隻  
彦根城博物館蔵

版画を勉強していた女子美術時代に会ったのがこの《彦根屏風》。描かれている江戸時代の風俗もとても興味深いものですし、無駄のない空間や女性のポーズが自由で動きがあるところに惹かれました。日本画に取り組むきっかけが、こういった絵画性とデザイン性を高いレベルで併せ持った作品との出会っていたから、後に日本画科とデザイン科双方で学ぶ機会を頂けたことは非常に幸運なことだったと思います。(田宮)

子どもの頃から女性を描くことが楽しかった。特に、顔や手に女性特有の表情が生まれたときや、絵の中の人物が「生命を帯びる」瞬間に喜びを感じた。時を経て思うのは、女性の可愛いらしさや美しさを描きたいわけではなく、その「生命力の強さ」を描きたいと願っていること。「男性の作家は、室内で髪を下ろしたオフ状態の女性を取り上げることが多いと思いますが、私の場合は逆

に太陽の下で、いつでも動き回れるように髪を結び付んでいる女性ばかり。男性や社会が女性に期待するしぐさや、あり方からなるべく自由な場所に女性を置きたいのかもしれない」  
目標は、女性が真に願う女性の姿を表現すること。まずは自分自身のためのアイコンを描くつもりで、画面に向き合っていく。



《少女》 2012年 33.4×24.3cm 和紙、岩絵具、膠